

Journal Japon

在仏日本人会 会報 2019年5・6月号



第9回 希望祭

2011年東日本大震災以降、義援金活動を主として続けており、今年で9回目を迎えます。飲食、雑貨、子供遊技などのブースが館内外に設置され、屋外ではパフォーマンスが繰り広げられ、家族で終日楽しめるイベント。ジャポニスム2018をテーマに盛り上がった昨年は、これまでで最大の来場者がありました。

日時：5月26日 (日) 11h~16h

会場： パリ国際大学都市・日本館
7, bd. Jourdan 75014 Paris

今年のテーマ：令和元年の希望祭Tシャツ200着、缶バッジを製作、販売予定
(売上金は日本人会の活動資金に充てます)

共催：在仏日本人会、パリ国際大学都市日本館、日本トランスユーロ

2019年の参加ブース予定：28ブース

2019年の参加パフォーマンス：和太鼓、尺八演奏、阿波踊り、三線など



フランスで日本のテレビを
**見るなら
今がお得!**

インターネットで
簡単視聴!

視聴料
**1ヶ月分
キャッチ
アップ!!**

さらに テレビで視聴できるデバイスを無料でプレゼント! ※12ヶ月契約の場合

お申込みは今すぐ! www.jstv.co.uk Tel. +44 20 7426 7330
[月~金 10:00~17:00(CET)]

NHK CosmoMedia Europe ※番組内容や放送日等は変更されることがあります

米倉涼子 × 松本清張
TBS系バラエティー
マツコの知らない世界
隔週月曜放送

疑惑
テレビ朝日系ドラマスペシャル
【前編】5月21日(火)放送
【後編】5月28日(火)放送
Etv-asahi

日本のニュース・ドラマ・エンタメ・子供番組など24時間放送中!

連続テレビ小説
なつめ
毎週月~土曜放送

三階堂ふみ × 亀梨和也
ダブル主演!
フジテレビ系ドラマ
ストロベリーナイト
サーガ
5月15日(水)スタート

夏も休まず営業中!

予約制

引越しセミナー

6.13 (木)

10~12時30 (昼食付)

JAL 会議室

参加者特典をご用意しています

引越免税のできるお店

弊社ご利用のお客様限定!

JASMIN 優待セール

6.11(火)~6.13(木)

北欧スランド(イッタラ、アラビア、マリメッコなど)、ポーランド食器(ポーリッシュポタリー)、フランスのホーロー鍋の専門のストウス、ジアン、リモージュ食器のアビランドなど取り揃えています!



トランスユーロ
transeuro.jp

☎ 01-4058-1000
✉ paris@transeuro.jp

空港まで『手荷物輸送』します! ▶ transeuro.jp/cdg.pdf
フランス生活サポート『電話通訳』します! ▶ transeuro.jp/denwasupport.pdf

特別寄稿 シャルル・マスト (Charles MAST) と日本の知られざる関係

在フランス日本国大使館参事官
有利 浩一郎

「チュニス 1944年12月14日 私は、日本国籍を理由に滞仏が困難になるのを懸念するパリのヴィクトル・ユーゴー通り66番地に住む薩摩治郎八氏の書簡を受領しました。私は、近年の全ての日仏行事のリーダーで、特にパリ大学都市に極めて多額の寄付を行った薩摩氏をとても昔から知っています。私としては、彼を1936年以降軍部により排除されたリベラル政治に大変愛着を抱いていた日本人と考えています。このため、貴殿が彼の態度につき私と異なる情報を持っていないければ、彼にフランス居住を許可するにつき不都合があってはならないと考えます。敬具 シャルル・マスト パリ外務省アジア局長ジルベール様」 パリ解放後、敵国人となった薩摩治郎八の滞仏に不都合のないよう要請するこの外務省局長宛の書簡は、解放後フランスのチュニジア総督シャルル・マストの手によるものである。彼は、日本では知られていないが、1944年のフランス解放に貢献した一人であり、日本と関わりのあった人物である。

彼は1889年1月7日パリ生まれ、1910年サンシール陸軍士官学校卒、第一次大戦に従軍、1927年来日、研修士官として陸軍大学校で学び、1930年に帰仏する。1933年、彼は再び仏陸軍駐在武官として東京に赴任、1934年には当時の満州国を旅行して日本当局からマークされる。1935年には横浜でフランス人の妻と再婚する。日独接近に伴い日仏間の情報交換が上手く行かなくなり、また、上記書簡にあるように日本では軍部の影響力が強まり、仏領インドシナへの脅威を予感しつつ、マストは日本での任務を終え、1937年に帰仏するのである。

マストは第二次大戦開戦後の1940年5月、ドイツの仏侵攻時に仏軍北アフリカ第3師団長として仏東部で戦い、降伏後ナチに捕らわれドイツのケーニヒシュタイン要塞に投獄される。

シャルル・マストとその妻 (wikipediaより)



ここで、ある日本軍人の名前が現れる。在仏日本帝国大使館の駐在武官沼田英治陸軍大佐である。彼は、1927年から3年間陸軍大学校で学んでおり、そのときマストと友人関係になったのではないと思う。沼田は1938年に各務原の陸軍飛行第二戦隊長となった後、1939年にフランスに駐在武官として赴任する。そして、彼の要求で、1941年9月、マストはナチから釈放されるのである。釈放後のマストには、日本赴任の話があったようであり、沼田が駐日経験の長いマストをヴィシー政権とのリエゾンとして日本に送るべくマストの釈放を掛け合った可能性もあると思われるが、彼は日本赴任を断り、ヴィシー政権下の第19軍団参謀長としてアルジェリアに赴任、一方で、密かに連合国軍に協力して1942年の北アフリカ上陸を助けフランス解放に重要な役割を果たす。そして、チュニジア総督、国立国防高等研究所長などを歴任し1950年に引退、1977年に亡くなっている。

戦争中、日本人の沼田に助けられ、日本人の薩摩を助けたマスト。味方同士の関係でなくても、国を超えた友情関係によって助け合う、そんな生き方がマストと日本との関わりを通じて浮かび上がる。

(注) 文中意見にわたる部分は筆者の個人的な見解であり、筆者の属する組織の見解ではありません。

著者紹介

有利 浩一郎 在フランス日本国大使館参事官(財務省出身)。1998年から2000年までパリ第二大学留学。財務省主計局、主税局、国際局などの勤務を経て、2015年からOECD代表部参事官、2017年から現職。



特別コラム (全3回) YouTube Generation (2)

オーディオの専門メーカーは、基本的には、永らくHi-Fiを追求してきました。原音に忠実な再生を望む場合、音源となる音響体と等しい大きさ及び素材が必要である、という大原則があります。例えばチェロの音を再現したいならスピーカーの箱には木を使う必要があります。高級なヘッドフォンには木を使ったものも見られます。また、パイプオルガンの低音を担う、ペダルの16フィートのフルート管にはパイプの長さが数メートルに及ぶものがあり、これを忠実に再生しようとするならば、同じく高さ数メートルのスピーカーが必要になる訳です。しかし実際問題として、そのようなものは家庭用としては価格的にも無理があり、それならばオルガンを聴きに教会に行けばいいではないかということで、意味ありません。オーディオメーカーは家庭に設置できる妥当なサイズのスピーカーで、なんとかして原音に近い音を再生できないかと苦心と努力を積み重ね、各社それぞれのノウハウを培ってきました。

しかしパソコンメーカーはHi-Fi音響機器メーカーのようなノウハウもなければ、汎用コンピューターとして、価格も抑えなければならないので、原音に近い音を再生するというよりは、主にポップスを聴いた時に「聞き映えのする音」をグラフィックイコライザーなどで調整し、うまくいけば、先にご紹介したTina Turnerのコンサートのように「しびれる」ようなサウンドをユーザーに安く手軽に楽しんでもいただける、と考えているようです。Hi-Fiを家庭で楽しもうと思えば、CD player、アンプ、スピーカーにそれぞれ1500Euros、合計4500Eurosの出費が最低でも必要ですが、ヘッドフォンならば400Eurosも出せば十分に納得のできる性能を持った高音質の製品が手に入ります。

私としては、せめて良い音質のヘッドフォンをお使いになることをお勧めします。ヘッドフォンは音源定位も大変優れています。Youtubeで Boney M. - Sunny (1976) https://www.youtube.com/watch?v=yD8DcgpLp_w を聴いてみてください。冒頭、リバーブ(人工残響装置)のかかったシンバルのソロがフィルターを使って、少しずつ音色を変えながら、16ビートを

を刻みつつ、右から左に移動して来るのが分かります。しかも、出だしは右チャンネルの奥の方から、音が聴き手に少しずつ近づいてくるような印象を与えるよう演出されています。こういう場合、平凡なミキサー技術者だと左チャンネルは無音状態にするものですが、このサウンドエンジニアはシンバルの原音を抜き取った、フィルターとリバーブ成分のみを左チャンネルに出力し、最初はピアノシムで始まりませんが、右チャンネルからのシンバルの定位がセンターに近づいてくるのに連れて、左チャンネルのフィルターのかかった人工残響成分は徐々にその音量をアップしながら、こちらもセンターに寄ってきます。これに、右から移動してきたフィルターとリバーブのかかったシンバルの音がクロスすると、左チャンネルの音と合体して、さらに左に定位を移動したように感じます。が、この時も左にシンバルの音が移動したからといって、右チャンネルを完全に無音状態にするのではなく、センター右寄りにフィルターのかかったシンバル音と残響成分をやや残して、あたかも残像のように音響空間に奥行きを持たせています。まず左チャンネルだけを聴いてみてください。次に右チャンネルだけを聴いてみてください。そして最後に両方のチャンネルを同時に聞くと、音に奥行きと広がりが出て、これらの音響技術の演出がより実感できるはずですが、こういった音源定位の演出は、スピーカーよりもヘッドフォンの方が、効果が高いと思います。

VR (virtual reality) もヘッドフォン(ヘッドセット)を利用することを前提としています。

ちなみに、この楽曲は当時、ミュンヘンサウンドと呼ばれたディスコミュージックとしてドイツでリリースされたものです。ボーカルメンバーはドイツ人ではありませんが、編曲や音響技術にドイツ人らしい論理的な構成力を私は感じますが、どうでしょうか？

(著者) ペンネーム: Idéal X バロック、古典派、ロマン派、近代、現代音楽、ポップス、ジャズ、歌謡曲、演歌、民謡、日本の伝統音楽、世界の民族音楽、さらにはアニメ、映画やドラマの音楽など、ジャンルにとらわれず、幅広く音楽を愛し、楽曲を自ら創作し、演奏もするミュージシャンです。



執筆、短歌、フラメンコ…
好奇心は、新しい窓を開ける鍵

重光 紀子

私が生まれたのは、東京神田猿樂町＝神保町と水道橋の間、明治大学付属中学の近くで、そこは、割り箸や折箱、経木、掛け紙などの問屋をしていた母の実家だった。通りに面したお店から、祖父の部屋、居間、台所、倉庫という順番で細長く連なった典型的商家建築の神田本店、毎日、沢山の人が訪れる家だった。浅草の合羽橋には本社があり、そこで働く伯父達や会社の人、お店に買物に来る近隣の食堂やお菓子屋さん、多くの親戚達、その他、魚屋さんから外交官まで、子供にとっては誰だかもわからない大人達が、朝から晩まで現れては祖母と談笑し、ニコニコと帰って行った。今、考えてみれば、祖母が淹れていたお茶の回数も大変なものだし、時間外の食事をしている人もいた。一方、父は別の会社に勤めていて有機化学を専門とする人だったので、この家の茶の間でも自分の研究や新製品の話をよくしていた。2001年頃に私は、ここで見聞きした出来事をメモしておこうと思い立ったが、当時子供だった私の記憶だけでは不十分、母や伯父達にも訊きながらPCに書き溜めていった。すでに70歳を超えていた母達兄弟が思い起こしてくれる古い記憶を書いていくのは、アルコールランプの柔らかい光に包まれたようなセピア色の作業で、ドラマを見ているようだった。さて2002年9月、東京の書店で珍しく手に取った小説新潮の背表紙を見たら、ある出版社が「追憶」というテーマで原稿用紙80枚のエッセイを募集しているのに遭遇した。このコンテストに優勝したら自分の原稿が出版される、という魅力的な企画である。それを見た瞬間、私は「これ応募しよう！題材は、もうパソコンにあるから」と簡単に決意した。10月にナントに戻ると原稿に取り組み始めたが、80枚というのは多そうでも少なくもあり、それなりに難航する。そして、年末の応募期限ギリギリに漸くまとまった原稿は、12月29日、ナントの郵便局から航空便で東京に旅立ったのである。それから1ヶ月程すると、私の原稿は優勝こそ逃したものの、最終選考まで残ったという連絡があり、共創出版なるものを提案された。つまり当時流行していた、制作費と宣伝費を作者と出版社が折半して本を世に出すという企画である。原稿というものを初めて書いて応募した人間にとって、それが印刷製本されて店頭に並ぶという大それた光栄は二度となさそうだから、その共創出版をやってみることにした。そこで、原稿を3倍くらいの分量に書き増し、挿絵も自分で描いて、2004年4月に目出度く発売となったのが、自著『神田のうち』である。私が3歳の時から12-13歳で祖父母を亡くすまでの間に、この家の空間を往来した人々の事業やイベント、ちょっとサブライズな日常の数々を、子供なりの分析と観察で眺めている私の追憶という形でまとめた。出版社は表紙のデザインにも拘り、〈・・・昭和中期のちょっとハイカラな暮らしが色鮮やかに蘇る〉という帯評を付けて、人生初の著書を全国の書店に並べてくれた。発売当時、勿論東京にいた私は、作者が自分で書店に持ち込んで店主とお話すると本を置いてくれやすいと知った。

そこで、23区と西東京の書店を精力的に訪ね歩いては、毎日何十冊という注文を取り、一ヶ月で再販に漕ぎつけたのである。しかしながらその後、書物さえも画面で読める時代になり、本を書きたい無名の人々を応援していた熱意ある小規模な出版社は次々と倒産してしまう。この本を出してくれた会社も、もう存在していない。だから、私のような人の原稿が、コンテストを経て紙の本になり得る、かなり希少で最後の機会だったのかもしれない。

ところで2001年、やはり書店で、短歌講座のテキストを眺め、NHK全国短歌・俳句大会の存在を知った。これもまた、思い付きで応募してみたら、6首のうち3首が入選や秀作に選ばれ、送りさえすれば何か貰えるのかと思ったが、そうでもないらしい。だったら続けてみようかと、俳句と短歌それぞれ3首を応募し続けて17年、意外にも毎年、何首か選ばれている。心に残る景色や色彩をトレースしながら三十一文字に推敲していく時、僅かな文字が続っていく研ぎ澄まされた臨場感みたいなものに、歌を詠むことの魅力があるのかもしれない、と、少しわかってきた。

それから、フラメンコ。これこそが私の本来の活動で、1994年にナントで主人のギタリスト＝クリスチャン・ギベールと一緒に、フラメンコ舞踊&ギターのアソシエーションを創り2000年まで教授活動をしていたが、その後、私の両親が相次いで亡くなってしまったことから、フラメンコは東京にシフトした。2006年から毎年、友人ミュージシャン達の協力を得て、ライフワークとしてのライヴ活動は14年めに入る。最近ではシャンソンを歌う友達と出会い、フランス語の歌や、スペイン・イタリアのポップスにも振り付けている。

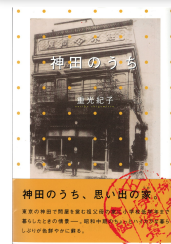
こんな風に興味関心が際限なく、知りたい、やってみたいエネルギーが自分を突き動かしてしまう。2017年には東京湾で一級小型船舶免許を取って見たが、ただ、取りたかったのである。そんな好奇心の連続がいつも私に新しい窓を開け、新しい陽光と風を運んでくれる。すると思いがけない主題が雪崩れ込んできて、また関心事が増えてしまう。そんな無限の連鎖に、私の毎日は明け暮れているらしい。



《プロフィール》

東京で、フランス文学科在学中にフラメンコ舞踊を始め、大学院在学中に渡仏する。パリ・ソルボンヌでフランス語を勉強しながら、マレ地区にあるダンススタジオで、スペイン人アーティストに師事し、フラメンコを続ける。フラメンコ舞踊家としての、職業認定証をパリにて取得し、コンセルヴァトワール等のイベントに参加。その後、夫クリスチャン・ギベール(ギタリスト)とともに、1992年、ナント市にフラメンコ・スタジオを創り、舞踊&ギター教室を主宰。2006年より、東京でライフワークとしてのフラメンコ・ライヴを始めて今日に至る

←著書『神田のうち』(碧天舎)



ご意見をお寄せください。



—France 2 Envoyé spécial «Japon, les enfants kidnappés» の放映から—

3月21日木曜日のFrance2の番組『Envoyé spécial』で「Japon, les enfants kidnappés」と題された30分ほどのルポルタージュが放映されました。日本人妻との離婚後のフランス人男性を追ったもので、日本でわが子との面会を求め続ける様子が映されています。このルポルタージュは大きな反響を呼び、当会にも様々な意見が寄せられました。そこで、改めてルポルタージュを紹介いたしまして、皆様のご意見を伺います。
送り先は、日本人会のメール・アドレス (nihonjinkai@free.fr) まで、『ルポルタージュを見て』と題してお送りください。あらかじめ連絡を差し上げますが、次回の会報でご意見を掲載させていただきます。なお、このルポルタージュは、下記のリンクで見ることができます。
<https://www.youtube.com/watch?v=MJVKHZtFQUc>
よろしくお祈りします。

編集部

通 NIPPON EXPRESS

引越し
は日通

- 日本人による親切、丁寧な事前見積
- 引越書類の作成も日本人スタッフがサポートさせていただきます
- 集荷から配達まで一貫輸送サービスを展開しております

日通お引越相談会 6月20日(木)
10時半～12時
会場 : JALパリ支店会議室
住所 : 4 rue de Ventadour 75001 Paris(仏式1階)
地下鉄最寄駅 7.14 Pyramides 3.7.8 Opéra

日本はもちろん、他の国やフランス国内のお引越しもお気軽にご相談ください

お引越し専用ダイヤル (日本語でどうぞ)
01 41 84 63 50

E-メール: nittsu.paris@neeur.com
HP: www.nipponexpress.com/moving/fr/
(HP内 お問い合わせフォームございます)

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2019年5月10日～2019年7月10日)

入館案内

開館日：毎週火曜日～土曜日(日、月曜日、祝祭日は休館)
開館時間：12時～20時、図書館は12時～18時(木曜日のみ12時～20時)

【展示】

*展示は別途表記のないものはすべて展示ホール(2階)で開催(火～土、12時～20時)、入場無料

「大津絵：日本の庶民絵画」展

会期：4月24日(水)～6月15日(土)
主催：パリ日本文化会館、大津市歴史博物館
入場料：5€(一般)、3€(割引)、無料(MCJP会員)
内容：日本の代表的な庶民絵画である大津絵についてのヨーロッパで初の大規模な展覧会です。大津絵は、江戸初期から明治時代にかけて、東海道を往來する旅人の土産物として人気を集めました。初期は庶民の日常的な需要に応えた仏画が中心でしたが、次第に人間のおごりや愚かさへの風刺などを盛り込んだ戯画や教訓絵へと変容していきました。浮世絵師たちも魅了され、江戸末期には、歌川国芳や河鍋暁斎などが浮世絵に大津絵の画題を取り入れたり、見立てたりして、そのユーモラスな精神を継承しています。

しかし、大津絵は、世界的に市民権を得ている浮世絵に比べると海外ではほとんど知られていません。今回の展覧会は、日本及びヨーロッパの所蔵品から選りすぐった約110点、江戸時代の古大津絵の名品を初め、大津絵の影響を受けた浮世絵や肉筆画、木彫、挿絵本等のほか、ピカソ旧蔵品や、ミロが1950年にバルセロナの民芸展で注目した大津絵などを展示するコーナーも設け、大津絵という日本美術の重要で未知の側面を紹介いたします。

「在仏日本人会アーティストクラブ(N.A.C.)2019」展

会期：6月27日(木)～7月11日(木)(最終日は18時まで)
主催：パリ日本文化会館、在仏日本人会 入場料：無料
内容：フランス在住の日本人アーティストの絵画、版画、彫刻、写真、陶芸等の作品が展覧されるピエンナーレです。前回、2017年には約50名の作家が展覧しました。日本の美とフランス文化の融合をご覧ください。また、鑑賞者賞を決める投票も行います。ぜひご参加ください。

「DULALA紙芝居コンクール作品」展示

会期：5月14日～18日
会場：地上階エントランスホール 入場料：無料、入場自由

「京都モダニズム」展

会期：7月2日～13日
会場：地上階エントランスホール 入場料：無料、入場自由

【公演】

「八木美知依(箏)」

日時：5月17日(金) 19時
会場：大ホール 入場料：5€
内容：故・沢井忠夫、沢井一恵に師事し、NHK邦楽技能者育成会卒業後、ウェスリアン大学客員教授として渡米中、ジョン・ケーザやジョン・ゾーンらに影響を受けた箏演奏家の八木美知依氏によるソロ公演です。

「紙芝居公演」

日時：5月18日(土) 14時～16時
会場：レセプションホール 入場料：無料・予約制
内容：DULALAアソシエーションと共催で紙芝居を上演します。第1部DULALAアソシエーションによる紙芝居入賞作品上演、第2部日本の紙芝居アーティストによる紙芝居作品の上演。仏語事業。

「三島由紀夫作『近代能楽集』」

日時：5月23、24日 講演会 18時半/公演 19時45分
25日 講演会15時/公演16時15分
会場：小ホール 入場料：一般10€、割引7€、会員5€
内容：伝統芸術である能楽集を現代的なシチュエーションに落とし込み、「近代能」という形で作品化した三島由紀夫の戯曲を、日仏女性劇団セラフが上演します。能楽の、時を超越した空間に、情念と欲望の象徴である人物を登場させることによって、まるで夢と現実との間を行き来するような幽玄な世界へと誘い、人間の条件という普遍的な疑問、愛、死という能楽の本質的なテーマを問いただします。公演の前に金春流シテの森瑞枝氏の講演がございます。

「Your teacher, please」 Ana Rita Teodoro

日時：5月29日(水) 19時
会場：小ホール 入場料：一般5€、割引3€
内容：大野一雄舞蹈研究所で大野慶人から学んだポルトガル出身のダンサー、アナ・リタ・テオドロの舞蹈に対する考察を作品化しました。

水曜コンサート「鈴木隆太郎、Gaspard Dehaene」

日時：6月5日(水) 18時半
会場：小ホール 入場料：5€
内容：パリのCNSMでBruno Riguttoの下で共に学んだピアニスト鈴木隆太郎とGaspard Dehaeneの共演による演奏会です。

「音楽の日コンサート The fin」

日時：6月21日(金) 20時
会場：大ホール 入場料：無料
内容：2013年9月にSoundCloudで公開された楽曲「Night Time」がネット上で話題を呼び、日本のみならず海外からも問い合わせが殺到した神戸出身のバンドThe fin。2014年にはフジロックフェスティバルの「ROOKIE A GO-GO」ステージに参加し、2015年にはアメリカ合衆国テキサス州オースティン市で開催されたSXSW 2015へ出演を果たしました。フランスを代表するバンドであるPHOENIXの来日公演のオープニングアクトを務めるなど精力的に活躍する注目のバンドによる音楽の日に合わせての公演です。

「『IZUMI』佐東利穂子」

日時：6月26日(水)、27日(木) 20時
会場：大ホール 入場料：一般10€、割引5€
内容：2014年、パリ日本文化会館での『SHE』の公演も記憶に新しい、勅使川原三郎率いるKARASのダンサー佐東利穂子が新作を発表します。

「東京藝術大学管楽アンサンブル」

日時：7月2日(火) 20時
会場：大ホール 入場料：一般5€、割引3€
内容：1949年に日本で唯一の国立の音楽を専門とする学部として設立されて以来、数多くの音楽家、教育者、研究者を輩出してきた東京芸術大学音楽学部。管打楽学科は歴史的に学生、卒業生、教員でウィンドオーケストラを行っており、今回も南フランスのフェスティバルに出演します。パリ日本文化会館でのコンサートでは、その一部のメンバー(教員、学生)による管楽室内楽を披露する予定です。

【講演会・セミナー・シンポジウム】

日本酒セミナー・試飲会

日時：5月11日(土) 15時～17時
会場：小ホール及びレセプションホール 入場料：15€、MCJP会員12€
内容：恒例の日本酒試飲会。日本酒を分かりやすく解説した後、蔵元たちが自慢の酒をふるまいます。仏語セミナー(一部日本語、仏語逐次通訳付)。

シンポジウム「成長、イノベーション、不平等—日本の教訓」

日時：6月4日(火) 10時～17時半
会場：大ホール 入場料：無料・予約制
内容：EHESDI日仏財団設立10周年を記念し、21世紀の経済・政治・社会の課題を、日本の経験と教訓にじっくり議論するシンポジウムを行います。トマ・ピケティ氏(予定)等の経済学者ほか、第一線で活躍する政治学、社会学の研究者陣、企業関係者らを日仏米から招き、議論の深化を図ります。英語・仏語講演、英仏同時通訳付(予定)。

シンポジウム「自然は考えるのか?—自然の知をめぐる日仏間の学際的対話」

日時：6月8日(土) 13時半～19時半
会場：小ホール 入場料：無料・予約制
内容：人間をとりまく環境は、地球規模的に楽観視できる状態にはありません。人間は自然との付き合い方を根本的に見直すべき時にきています。西洋近代的パラダイムの自然観を再検討するため、日仏研究者が、自然に対するゆるぎない人間の優位性を深く問い直し、文化的、学際的に議論します。基調講演は、京都大学総長・山極壽一氏。日仏同時通訳付。

講演会「東アジアにおける漢文化」

日時：6月13日(木) 18時～
会場：小ホール 入場料：無料・予約制
内容：コレージュ・ド・フランスのジャン=ノエル・ロベール教授、国文学研究資料館のロバート・キャンベル館長をお招きし、今も東アジア圏で色濃く残る漢文化をテーマに講演を行います。同じ漢字を用いながらも国によって違う意味に使っている場合が多々あり、それが相互の誤解を招いている可能性があるとの仮説を掘り下げていきます。日仏同時通訳付(予定)

講演会「日本の発酵文化人類学」

日時：6月21日(金) 18時～
会場：小ホール 入場料：無料・予約制
内容：「発酵文化人類学」(2017年刊)の著者・小倉ヒラク氏を招いた講演会。日本にしかない「菌」・「麴」を根底に、日本の食文化の歴史と現在、環境との共生を紐解きます。日本語講演、仏語逐次通訳付。

講演会「和菓子を愉しむ」

日時：6月29日15時～16時半
会場：小ホール 入場料：無料・予約制
内容：文化交流使・清水利仲氏が伝統的和菓子をご紹介します。歴史、文化、素材などについてもお話します。日本語講演、仏語逐次通訳付き。

日本酒セミナー・試飲会「日本酒スパークリングとフレンチ食材のアバンチュール」

日時：7月10日(水) 17時-20時
会場：小ホール 入場料：20€
内容：2017年フランスにおけるフランス人のための日本酒コンクールとしてスタートしたKura Masterは今年3年目を迎えます。今年は新しくカテゴリーに入った日本酒スパークリングとフレンチ食材の相性の秘密を、審査委員長ガザビエ・チュイザと有名シェフが語ります。セミナー後、コンクール入賞ベスト100の日本酒の試飲会を行います。仏語事業(予定)。

【ワークショップ、他】

篆刻ワークショップ

日時：5月18日(土) 13時半及び16時
会場：教室2 入場料：35€
内容：篆刻は書道の一分野の、最も小さな芸術です。本ワークショップでは篆書、または、かな文字でお名前またはご希望の字を彫ります。世界でひとつ、オリジナルの篆刻印は、作品や手紙にサインとして用いたり、本や持ち物に押し、使いはアイデア次第です。さらに印面を守るための「はかま」も作ります。仏語事業。

親子味噌作り体験ワークショップ

日時：6月22日(土) 15時～16時
会場：レセプションホール 入場料：10€
内容：「みそ」とは何でしょうか。日本の家庭料理に欠かせない食材として1300年前から食生活を支えているものです。日本の家庭では今でもそれぞれの家庭で味噌を作ります。そして、この作業は食教育が重視される以前から、子供たちとすることが常でした。ぜひこの機会に味噌をゼロから造り、どのように食すか体験してください。造った味噌はお持ち帰りができます。エプロンをお持ちください。5歳以上、9歳以下は大人の同伴要。日本語事業、仏語逐次通訳付き。

<パリ日仏文化会館事業案内つづき>

和菓子ワークショップ

日時：6月28日(金) 15時～17時及び18時～20時
 会場：厨房及びレセプションホール 入場料：15€
 内容：葛菓子、蕨餅、水饅頭、練切など、目にも涼しく夏にふさわしい涼菓を文化交流使・清水利仲氏が披露します。練切については参加者にも体験いただき、出来上がったお菓子を召し上がっていただきます。日本語事業、仏語逐次通訳付き。

「カタヒラヨシミ先生のマンガ集中講座」

日時：7月9日(火)～12日(金) 14時～17時
 会場：教室2 参加費：4セッション1コース100€
 内容：12歳以上対象。フランスでイラストレーター・漫画家として活躍のカタヒラヨシミ先生が集中講座を開講します。仏語事業。

子ども事業「絵手紙ワークショップ」

日時：7月11日(木)及び12日(金)
 会場：教室2 参加費：10€
 内容：オリジナルの絵手紙で挨拶状を作ってみませんか？8歳以上対象。仏語事業。

【囲碁教室】

開催日(土曜日)：5月11日・18日・25日、6月1日・15日・22日
 <上級>14時半～16時 <全レベル>16時～17時半
 受講料：10回コースに対し50€、MCJP会員及び18歳以下割引35€

【裏千家茶道-茶の湯】

開催日：4月3日～6月26日まで毎週水曜日(祝日を除く) 参加費：一律7€

【裏千家茶道教室】

開催日(水曜日)：6月26日までの水曜日、17時15分コース及び18時コース
 受講料：6回コースに対し66€、MCJP会員割引57€、学生(26歳以下)割引48€

【表千家茶道-茶の湯】

開催日(土曜日)：6月15日・29日 参加費：10€

【表千家茶道教室-立礼】

開催日(火曜日)：4月23日～6月26日までの火曜日
 17時半～19時半 受講料：10回コースに対し130€

【生花教室】

小原流：火曜日 初級12時半～14時、
 中級14時半～16時：5月14日・21日・28日、6月4日・18日
 草月流：木曜日 初級13時～14時半、
 中級15時～16時半：5月23日、6月13日・27日
 池坊流：水曜日 初級及び中級18時～19時半：5月22日・29日、6月5日・12日・19日

【書道教室】

開催日(水曜日・かな中心コース)：5月2日～6月27日(ただし5月30日は除く)
 18時～19時半 受講料：8回コースに対し160€
 開催日(金曜日・漢字中心コース)：5月10日～6月14日18時～20時、
 受講料：5回コースに対し130€

【布ぞうりワークショップ】

開催日(金曜日)：6月21日・24日 15時～18時
 受講料：2回コースに対し45€

【折り紙アトリエ】

開催日(水曜日)：4月24日及び7月10日
 7歳以下：15時～15時45分、3€
 8歳以上及び大人：16時～17時半、6€

【日本文化体験アトリエ】

日本文化を垣間見ることができる体験アトリエです。お道具は全て貸し出し制です。
 ※登録権利は各分野一回のみとなります。
 ・着付け
 開催日(土曜日)：3月16日・23日・30日 16時～17時半
 受講料：60€/3セッション1コース

・いけばな

開催日：5月25日 14時～15時半及び16時～17時半 受講料：20€

【日仏バイリンガル子ども対象日本語アトリエ】

DULALAアソシエーションが日仏バイリンガルの子ども3-6歳、そして6-8歳を対象に日本語アトリエを9月から実施します。詳細は当館サイト、または、アソシエーションのサイトをご覧ください。

■日本語事業部では、フランスの日本語学習者、日本語教師の方、そして広く日本語教育に関心をお持ちの方々にご参加いただける、さまざまな日本語教育事業を行っています。

【お問い合わせ先】

教師相談：nihongo.contact@mcjp.fr 日本語講座：koza@mcjp.fr

【日本語教師向け情報】

下記「日本語教師向け情報」ページに、会館日本語事業について最新情報を掲載しております。ご活用いただければ幸いです。https://sites.google.com/site/nihongomcjp/

【教師相談】

教授法、教材、教室活動等、日本語教師が抱える問題点について個別相談に応じます。メールでのご相談も受付けています。対応可能な範囲で随時(希望日の1週間前までに当館日本語サイト「日本語教師向け情報」ページからお問い合わせください)
 料金：無料、要予約 https://sites.google.com/site/nihongomcjp/home/soodanmooshikomi

【日本語講座】

当講座は、国際交流基金が開発した日本語教材『まるごと 日本のことばと文化』シリーズを使用する、JF日本語教育スタンダードに準拠した講座です。教材や関連資料についての詳しい情報は下記サイトをご参照ください。
 https://www.marugoto.org/

国際交流基金関西国際センターでは、日本語eラーニングや学習者コミュニティなどが利用できるサイト「みなと」(https://minato-jf.jp/)を開発しており、「まるごと」をオンラインで学習できるコース(A1～A2.2レベルが開講中)を始め、ひらがな・カタカナのコース、まんがや俳句をテーマにしたコースなど、多彩な日本語オンラインコースを開講中です。

「まるごと」オンラインコース(レベルA1・入門)はフランス語版も開講しています。お好きな時間にお好きな場所で学べる自習コースです。初めて日本語を習う知人・友人の方ぜひご紹介ください。詳細や登録方法については以下をご覧ください。
 https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

【日本語しゃべるん】

当講座では、受講生が日本語で会話してみるイベント「日本語しゃべるん」を定期的に開催しており、会話相手のボランティアを募集致します。次回は1月19日(土)16時30分～18時30分の予定です。詳細は決定次第、次回日本人会会報、当館ホールや図書館に設置するチラシ等にてご案内致します。お問い合わせは日本語講座まで。

【短期コース】[旅行の日本語 Parler le japonais en voyage]

日本旅行の前に、簡単な日本語を学習しておきたい人のための、初心者向け短期コースです。日本語学習未経験者の方を対象としています。お知り合いのフランスの方ぜひお勧めください。

日時：6月12日(水)・19日(水) 18時45分～20時45分

*2日間(合計4時間)の講座です。

申し込み先：https://www.mcjp.fr/

*申し込み開始は開講1か月前の予定です。

<パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ>

問合せ：TEL 01 44 37 95 01 FAX 01 44 37 95 15

所在地：101 bis, quai Branly, 75015 Paris

http://www.mcjp.fr/

*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。

ヨーロッパでの和紙にまつわるお話 <8>

～紙の語源について～

坂本昭二(龍谷大学/Centre de Recherche sur la Conservation)

日本など漢字文化圏での「紙」の文字は中国から来たものです。最古の漢字辞典である『説文解字』(編纂者：許慎(30-124年))にすでに「紙」の文字が現れており、そこには「紙、絮一苦也」とあり、紙とは絮(ぼろわた)の一つの苦(糞)でこしたものと説明されています。紙そのものは紀元前1世紀前後に発明されたので、それより古い時代の甲骨文や金文(青銅器に刻まれた文字)からは「紙」の文字は見つかっていません。

中国で発明された紙は7～8世紀頃にシルクロードを経てアラブ世界に伝わっていったのですが、中央アジアから中東地域においてはソグド語(現在のウズベキスタンやタジキスタンで用いられていた言語)で樹皮を意味するkayaðaが由来と思われる単語が紙の意味で使用されています。これは中国では穀(カジノキ)や桑などの樹皮繊維から紙を作っていたことによるものだと考えられます。現在、トルコ語のkağıt、タジク語のKofazなどが紙の意味で使われています。古いアラビア語にもkaghad という単語が紙の意味で使用されていました。

アラビア語では、kaghad の他にもqirtasやwaraqが紙の意味で使われていました。qirtasは古代ギリシャ語でパピルスの巻物を意味するχαρτίς(chártis)に由来するもので、イタリア語のcarta、ギリシャ語のχαρτί(chartí)などもこれに該当します。ちなみに、日本語で使われているカルタ、カルテ、カード、チャートも紙の意味では使われていませんが語源は同じです。そしてwaraqですが、一葉の紙を意味するwaraq qirtas(元々はwaraqは葉を意味していた)として使用されていたものが、waraqだけで紙を意味するようになりました。現在、アラビア語圏である中東から北アフリカではwaraqが紙の意味となって用いられています。

そして、紙の製法は11～13世紀頃に中東、北アフリカを経由してヨーロッパの南(スペインやイタリア)に伝わり、さらに、ヨーロッパの南から北へと伝わっていきました。フランス語では紙はpapierで、よく知られていることですが古代エジプトで使用されていたパピルス(papyrus)に由来しています。他のヨーロッパの国々の言語でも同様で、例えば英語のpaper、スペイン語のpapel、フィンランド語のpaperiなどがこれに該当します。ところが、ロシア語では紙はbýmara(bumaga)になります。これは最初にロシアに輸入された紙がイタリア製でその材料がコットン(イタリア語でbambagia)であったことに由来するようです。

こうして見てきますと、まるでユーラシア大陸で様々な言語を経て行われた壮大な伝言ゲームのように思えてきます。ちなみに伝言ゲームですが、例えば英語ではChinese whispers、フランス語ではtéléphone arabeがこれに該当します。やはり異なる言語間(例では中国語-英語、アラビア語-フランス語)での情報伝達は難しいようですね。



より正確に、より易しく、より詳しく！
各種トラブルに専門家が答える

Plafond de Sécurité Sociale, SMIC, MG

- Sécu (2019年1月1日-12月31日) 月額：3377 年額：40524
- SMIC 時給：10.03 月額：1521.22 (brut/週35h労働)
- MG 3.62 *単位はユーロ

滞在相談室からの報告：

SMICその他の数字・指標と各種の滞在許可証 (1)

(1) SMIC (SALAIRE MINIMUM INTERPROFESSIONNEL DE CROISSANCE) の規定

皆さん、よくご存じの数字です。
全職種に共通のミニマム時間給。どんな職種であっても、この時間給以下は違法となる法定最低賃金。毎年、1月1日付で調整されます。通常、1月1日-12月31日の1年間に適用されます。なお、SMIC数字はBRUT(額面)です。

2019年1月1日付	
SMIC(時給)	10.03 ユーロ
月額	1521.22 ユーロ (週35h労働、月151.67hの計算値)
年額	18255 ユーロ(月額×12か月の計算値)

なお、SMIC(時給)数字以外は計算値になるので、サンチーム単位の数字にバラツキができませんが、無視してよいでしょう。

(2) 学生滞在からSALARIEへ身分変更申請する場合のSMIC指標 MASTER (同等含む) 以上のDIPLOME取得者で、月額給与がSMICの1.5倍のCONTRAT DE TRAVAIL (労働契約)を提示できれば、PLEIN DROIT (労働許可申請が却下されない) とされています。

月額給与1521.22 ユーロ × 1.5 = 2282ユーロです。

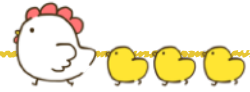
この条件を満たしていない場合の申請は、OPPOSABLE DE LA SITUATION DE L'EMPLOI (その地域、その職種での求人・求職状況から許可・却下が判定される) になります。DIREDDTE-MOE(外国人労働管理局からの却下通知には、「当管轄区内では、求職者○○○○人、求人件数×××件であり、外国人に労働許可を下るせる状況にありません」と記されましょう。

(3) 学生滞在からENTREPRENEUR/PROFESSION LIBERALEへ身分変更する場合のSMIC指標：「少なくとも年額SMIC相当の職業収入が見込まれる職業プラン」の提出、とされています。

「年額SMIC相当の職業収入」は上記(1)に記したように18255ユーロです。職業プランが評価されれば滞在許可 ENTREPRENEUR/PROFESSION LIBERALEが発行されましょう。有効期限1年のカードです。1年後の更新時に「年額SMIC相当の職業収入」があったことを立証できれば、4年カードが発行されています。多少下回っていても4年カードが発行されているのが実情(パリの場合)ですが、大きく下回っている場合は、再び1年カード発行にとどまったケースも散見されます。

(4) PASSEPORT TALENT第1項「SALARIE QUALIFIE」のSMIC指標MASTER以上(同等含む)のDIPLOME(同等含む)所持者で、月額給与がSMICの2倍のCONTRAT DE TRAVAIL (労働契約・CDI)を提示できれば、「PASSEPORT TALENT L313-20-1°SALARIE QUALIFIE」が発行されましょう。4年カードです。(以下、次号)

文責 滞在相談室 担当 岡本宏嗣



パリ日本語補習校

2019-2020年度 学校説明会

日時：5/18、5/25日(土) 10h~11h30

会場：サン・フランソワ校

20 Av. Bugeaud 75116 Paris

対象：9月からCP以上のお子様の保護者

詳しくは本校HPをご参照ください。

<http://parisnihongohoshuko.com/home/home.html>

- 第13回日本人会
- アーティストクラブ (NAC)



ビエンナーレ展

● 会期：6月27日(木) ~7月11日(木)

● 会場：パリ日本文化会館

● Maison de la culture du Japon à Paris

● 101 bis Quai Branly 75015 Paris

● 火曜日~土曜日の12時~20時

● 最終日は18時まで(日月曜休館)

● 最寄駅：メトロ6号線 Bir-Hakeim

● RER-C線 Champ de Mars - Tour Eiffel

新刊案内、
アトリエイベント情報は

@JunkuFr



営業時間 10時~20時 月~土

Librairie japonaise JUNKUDO
18 rue des Pyramides
75001 Paris France
Tel: 01 42 60 89 12
Mail: contact@junku.fr

おすすめ



『樹木たちの知られざる生活 森林管理官が聴いた森の声』
ベーター・ヴォールレーベン 著
早川書房 刊

文化教養学園幼稚園パリ分園

1981年開園。日仏の文化にふれながら豊かな情操を養います。
3年保育。2才児特別クラス。
水曜クラス。各種幼児教室も併設。

10 Rue du Bouquet de Longchamp 75116 Paris
TEL.FAX 01 4553-7895

お問い合わせは雁金まで

<http://www.bounkakyoyoparis.com/>

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談(会員のみのみ)

*要予約(電話に限る): 01.47.23.33.58

法律相談(フランスの法律問題)(相談料5ユーロ*)

5月18日(土)15h~。ラメール弁護士が担当。法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類を持参ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談

5月28日(火)、6月13日(木)、6月25日(火)

滞在・労働・商業の3許可、自由職業(PL)、滞身分身の変更、SECURITE SOCIALE、フランスの年金/日仏社会保障協定など各種ジャンルの相談に応じます(関連書類がある場合は必ずご持参ください)。

健康相談(予約は2週間前までに)

お問い合わせください。日本語の堪能なDOUIEB医師(内科・産科)担当。

保険相談

6月11日(火)

住宅・自動車から疾病・老齢保険まで専門家があらゆる相談に応じます。毎月第1火曜日

無料メンタル・カウンセリング

毎月第3金曜日10h~17h

場所: 邦人医療相談室 59, Bd. Victor 75015 Paris

担当: 太田博昭医師(精神科)

カウンセリング希望の方は直接TEL:01-4533-2783に予約を入れてください。なお上記の日時以外のカウンセリングは有料です。

日本人会子ども発達相談室

子どもの発達に関する相談に応じます。

相談日: 毎月第1・第3土曜日 9h30~12h00 会場: 日本人会

相談員: 認定心理士 折口志都、臨床心理士 関口弥希。kodomofr@gmail.com

クラブ活動

ふらんす俳句会

毎月第2日曜日14hより定例会、パリ国際大学都市「日本館」にて。有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。1回目の見学無料。

連絡: 鈴木 みどり メール: midori.s@free.fr

子ども図書館

読み聞かせ 毎週水曜日15h~17h。日本語児童図書の出貸・返却は随時。入会金2ユーロ

S.O.S.ママクラブに入会しませんか?

母親間の親睦を図る相互託児システムのクラブ。入会申込書は日本人会へご請求ください。TEL 01-47-23-33-58

女声コーラス「みもざ」

仲間とハモって、楽しいひとときをすごしませんか。

日本の歌、ミサ曲など。毎週火曜日14h~16h30。Centre Catholique Japonais de Paris / 4 bd Edgar Quinet 75014 Parisにて。frmimosaxb.jpを参考に。

連絡TEL 06-76-41-79-61(長谷川)、メール: mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ(NAC)

日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。NAC月例親睦会 毎月第1木曜日18h~20h。飲み物代各自負担。詳細は日本人会までお問い合わせください。

マロニエの会

毎月第2火曜日15h~18h茶話会、第3日曜日&第4水曜日14h30~国際大学都市「日本館」で月例会。会報を年3回送付。年会費15ユーロ。連絡TEL: 01-46-58-57-99(安本) 01-49-15-08-73(二口)

ソフトボール大会

春秋の年2大会あり。年齢・性別・国籍に関係なく、個人またはチームでの参加可。

連絡実行委員長 代理 橋本 勝義 TEL: 06-14-73-37-31

キッズテニス

ARJ16 Tennis Club (Stade Henry de Montherlant パリ16区)

毎週月、火、金曜日 小学生から高校生まで11クラス

毎週木曜日ママクラス 2クラス

お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

各種講座

書道同好会

毎週木曜日16h~17h30 参加費: 月20ユーロ 代表: MARTIN安本年子

TEL: 01-46-58-57-99 国際大学都市「日本館」で15h30~17h30

くもん日本人会教室

水曜日14h30~17h40 土曜日10h30~15h00 詳細はTEL: 06-5252-2801(石川)

パソコン教室

連絡先: シュワルクキューブ テクノロジーズ 担当: 佐藤 TEL:01-45-20-86-81

FAX:09-59-81-59-63 メール: education@sucrecube.fr

http://www.sucrecube.fr

パリきものレッスン 入門コース

毎月第2・4 土曜日15h00-18h00、40ユーロ/回。

着物の着装を初めての方から楽しく学べるコースです。

講師: 山田美佳 問合せ・予約 Tel: 06 82 68 87 35 mika.france@icloud.com

於 日本人会、定員4名、HP www.paris-sodo.com

お持ちいただくもの: 1.肌襦袢 2.長襦袢 3.腰紐(4本) 4.衿芯 5.伊達締(2本) 6.着物 7.襟留め 8.コーリンベルト 9.帯 10.帯板 11.帯枕 12.帯揚げ 13.帯締め 14.足袋 15.タオル(2枚)

※着物や帯・小物などの貸与可

シャンソンDidier教室

第2・4土曜日16h15~17h45

場所: パリ国際大学都市・日本館

住所: 7, Boulevard Jourdan, 75014 Paris

年会費100€ レッスン1回8€(非会員は15€)

連絡先: ch.tanaka@orange.fr

01 4329 5235 / 06 0383 2674 (田中) 01 4229 1072 (山口)

太極拳・気功教室

上・中級クラス 日曜17h~18h 初級クラス日曜18h~19h 会場: 54rue Emeriau 75015

Paris 参加費: 40ユーロ/月4回。非会員も参加可。但し45ユーロ/月。太極拳・気功の他に簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理の知識等も指導。講師/連絡先: ラン光旭 (パリ第6大学医学大学院気功・太極拳講師)

TEL:06-69-43-54-45 メール: rangx@yahoo.co.jp

健康と美・ウォーキングレッスン

元パリミラノ東京コレモデル/現役モデルによるウォーキング・写真のポーズ・メイキャップ・Before & Afterなどニーズに合わせた個人レッスン。(コース3回会員

180ユーロ・非会員別途料金) 詳細はお問い合わせください。講師: 北幸子 (Master Models,Oasis Styling) facustudio@gmail.com TEL:06-2296-0655

フランス語朗読会

参加費: 週1回1時間8ユーロ。1回目は無料。5回を1サイクルとし、2回目までにあと5回分(40ユーロ)をまとめてお支払い。スカイプでの受講も可。(詳細はお問い合わせください) 場所: Place Monge界隈(パリ5区) 時間: 水15h30~16h30上級、金15h~16h中級、金16h15~17h15。

お問い合わせ: ch.tanaka@orange.fr(田中千春)

子供のための習字教室

土曜クラス: 毎週土曜日12h~13h、13h30~14h30。場所: 日本人会 授業料: 月毎に前納払い(1回15ユーロ)(日本人会会員料金)。入学随時受付。

お問い合わせ: 六藤佳世子 06-22-53-74-18 kayoko94000@yahoo.co.jp

日本館茶の湯同好会

場所: 国際大学都市『日本館』

稽古 月3回月曜日14h30~18h30 参加費10ユーロ

茶の湯の会 随時

初心者向稽古 土曜日午後

詳細はメールにてお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。(高木宗悠) nihonkan.cyanoyu@gmail.com

成人学習者向け日本語講座

第2、第5土曜日10h00~12h00 Faux débutantのクラス 会場: 日本人会 問い合わせ&申し込み: nihongocafe022015@gmail.com

ヨガ教室

日時: 月曜日10h30~11h30、火曜日10h30~11h30/19h~20h、木曜日16h~17h 会場: パリ7区 対象者: 全てのレベル 参加費: 要問い合わせ

講師: ラロッシュ・アメリ 問い合わせ・申込み: larocheamelie@gmail.com(日仏)

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。

日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/>

amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/>

日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランボーラボロスへどうぞご連絡下さい

91, rue Saint-Lazare 75009 PARIS

TEL.01.53.32.20.00 まで

FAX.01.42.85.04.65



無常の世の中に、残るものはただ十字架。
暗闇の中、瓦礫のう上に十字架が輝く。
Michel

- M** 読者の方々にあなたを紹介したいので、質問に答えてくれますか。
- ND** もちろん、喜んで。
- M** 最初の質問です。あなたは誰ですか。
- ND** 私はパリのノートルダム寺院です。
- M** あなたは何歳ですか。
- ND** 856歳です。
- M** それは凄いですね。建設はいつ始まったのですか。
- ND** 十二世紀の1163年に始まりました。
- M** 建設には長かかったのですか。
- ND** 人間と同じように大人になるまで時間が掛かります。
- M** ではその少年期はどのくらい続きましたか。
- ND** 二世紀ぐらいかかりました。
- M** 長い人生にいろんな出来事を経験したでしょう。
- ND** もちろん、楽しい出来事と悲しい出来事。
- M** 楽しいことは。
- ND** まず、キリストのいばらの冠の到来。ルイ九世(Saint Louis)は、飾りなしのチュニックを着て裸足でその冠を迎えました。
- M** 他の重要な出来事は。

*Promenade
sur l'histoire française*

フランス歴史散歩
私はパリの
ノートルダム寺院です
Je suis Notre-Dame de
Paris



Michel BRUNEAU
(ミッシェル・ブリュノー 会友)
当会フランス語講座講師
1978~98年日本に滞在 元上智大学講師

- ND** ジャンヌダルクの有罪判決の取り消しです。
- M** ジャンヌダルクはパリに入れなかったでしょう。
- ND** 入りたかったけれど入れませんでした。王様が反対でしたから。
- M** そしてルーアンの町で裁判を受けて1431年の5月30日に火炙りにされました。
- ND** でも25年後に1456年7月7日にルーアンの判決はパリのノートルダム寺院で取り消されました。その儀式にジャンヌダルクの母と兄弟が出席しました。
- M** 悲しい出来事は。
- ND** 特にフランス革命の時でした。革命家は宗教を破壊したかった。私は物品の倉庫になりました。
- M** 幸いにその後、ナポレオンの戴冠式がノートルダム寺院で行われました。
- ND** 革命の苦しみを受けてから、また教会になりました。
- M** ルネサンスの時からインテリの間ではゴシック建築は人気なくて、軽蔑されました。
- ND** それで私はゴシックと呼ばれました。彼らにとって、ゴシックは野蛮の意味でした。でも私はゴシックではなく、本当のフランス人です。
- M** 幸いに19世紀はゴシックの偉大さと美しさを認めました。
- ND** まずシャトーブリアン (François-René de Chateaubriand) のおかげです。
- M** そしてヴィクトル・ユゴー (Victor Hugo) 。
- ND** そうですが、ユゴーは歴史家ではなかったで、彼の中世のイメージはゆがんでいます。
- M** しかしユゴーの小説『ノートルダム・ド・パリ』は凄いい人気を得ました。

*写真はネットの投稿より流用



在仏日本人会女声コーラスみもぞ

みもぞ

第33回定期演奏会

2019年6月16日(日) 開演16時30分

「祈り—踊り」

モーツァルト、フランク、ラヴェルの作品他、
日本の歌、民謡

指揮 笥 明絵
ピアノ・オルガン 高尾 明子

賛助出演
岡崎 陽香
奥澤 麻紀子

Eglise Notre-Dame de Compassion
Place du Général Koenig 75017 PARIS

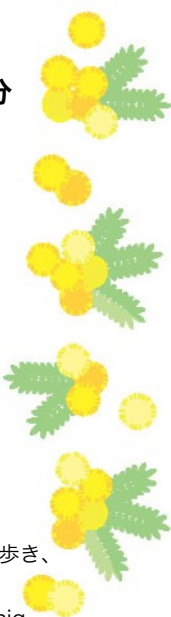
[交通機関]

Métro ligne 1 / RER C : Porte Maillot
出口« Palais des Congrès »より出て

Palais des Congrès に沿ってホテル Hyatt Regencyまで歩き、
左手斜め向かい

Bus : PC Porte Maillot-Pershing / 43 Général Koenig

入場自由



希望祭当日ボランティア募集 (5月26日)

来る5月26日(日)に国際大学都市で行われます第9回希望祭の当日ボランティアを募集します。お手伝いいただく内容は、会場の準備、案内、片付け、セキュリティーなど。

希望祭への来場者は年々増え、今年も国際大学都市祭の中で行われるために数千人の来場者が見込まれます。

ご協力いただける方は、kibousai@nihonjinkai.fr までメールをお送りください。

宜しくお願い致します。

希望祭実行委員会

FEHRENBACH DRIVING SCHOOL



=外国人向け自動車教習所=
英語・フランス語・日本語

32年の実績

- ・ フランス自動車免許の取得
- ・ 右側通行運転の実習

53 boulevard Henri Sellier 92150 SURESNES
Tel. 01 45 06 31 17 (代表) / 06 20 63 75 31 (日本人係)

fehrenbach@frenchlicense.eu
www.frenchlicense.eu

AmicJカード提示で料金10%引き

終(ついに)のデザインのススメ

己の最後を決めるための
日本における相続・遺言の基礎知識(31)
(日仏間も視野に入れて)

遺言の準備 ～その6～

前回、日本における自筆証書遺言に関して民法が改正になり、おススメ度アップしたと紹介しました。近時、相続や遺言、後見や家族信託などについて、各種メディアで‘便利’で‘簡単気軽な’情報が氾濫している中、今後の相続法改正などの重要な情報に接するとき(遺言の準備)の心構えに触れてみます。

◆自筆証書遺言、主要部分の記載は、相変わらず「自筆」です！

今回、自筆証書遺言の要式が軽減されて、財産目録をワープロその他で準備できる、という点はとても大きな変更点です。

この点につき先日Aさんと打合せの機会に次のような会話がありました。Aさんのお母様(現在85歳)の自筆証書遺言の再度の作成(書き直し)に話が及んだ際、「自筆証書遺言、ワープロでOKとなったんですよ！」とAさん。私が、「確かに楽に作成可能ですが、ワープロで準備可能なのは財産目録だけ。全ての財産目録のページに自筆の署名と押印も必要ですよ」と回答。Aさんは「えー、やっぱり自筆部分があるんですか、、、うーん、もう厳しいかも。字を書くのが億劫になっているので。。。」との発言。

Aさんは会社経営者で情報収集能力も高い方で、終活関連情報にも意識が高い方です。それでも、テレビやネットで得た新たな情報(民法改正・自筆証書遺言の要式変更(緩和))が正確さを欠いているというのに、改めてハッとさせられました。

◆認知バイアス(心のフィルター)があるのだ、と心がける。

社会心理学に認知バイアスという、接する情報のうち自分に都合のいい部分だけを選択してしまう効果があるといえます。健康や体によい食事、節約術などの情報と異なり、法律行為、特に遺言は、要式行為という法律規定の様式を非常に厳格に守らないと無効になる、という結構重大なリスクがある行為です。

つまり、心のフィルターが無意識に動き、今後の民法改正の情報を自分に都合のいいように取り込み準備してしまうと、効果を発揮すべき時に無効、ということが起こるかもしれない、と通常より「慎重」にこれらの情報に接するほうがいいかもしれません。

◆有効、でも実務的に使えない遺言もある。

3姉妹の母親が亡くなり、その母親が3人のうち上2人の姉の名前を記載して「私の財産を相続させます」との自筆証書遺言がありました。この遺言は家庭裁判所の検認手続も経て形式的に有効です。ただし、検認手続の際、三女は、この遺言記載の字は母の自筆でないかと否定。姉2人が遺言を母に書かせた、という話です。

この検認済みの遺言を持参し上2人の姉が、地元の司法書士に不動産の相続登記を依頼したところ、この司法書士の判断は次のようなものでした。三女も含めた相続人全員の同意が必要な「遺産分割協議書」を作成して、上2人の姉達に財産が帰属するようにすべき。三女にこの協議書に実印を押してもらわないと相続登記はできない。つまり、この遺言では、実務的に不動産登記をするのが困難だ、と判断したようです。

この遺言は法定の要式を満たし形式的に有効ですが(家庭裁判所の検認手続は、内容の有効無効の判断はしません)、実務的な判断として、相続分の割合が指定されていない、との不確定要素があります。私の財産の「全部」と記載してあれば、半分ずつの帰属で登記も可能かもしれませんが、全部とも一部とも書いてなく、持分の指定もない遺言で、かつ遺言の検認手続で三女は母の自筆を否定している(紛争の種がある)との状況では、実務家としては不動産の登記の実行が今後の紛争のもとになる、と判断せざるを得ず、相続人全員の同意が必要、との判断をしたのでしよう。

姉2人は、母親に自筆で全文を書かせ署名、押印もさせて形式は整えました。上述のような一般の方にとってはどうでもいいポイントが、実は非常に重要だ、ということがあります。特に遺言関係はこのようになちよとしたミスが致命傷になるので、今後、特に遺言や相続の改正の情報に接する際には、自分に都合の良い情報だけの取得にならないよう、気をつけていただきたいです。



馬文化を通して日本を考える (6)

近代日本史；
日露戦争とその後・その1

パリは2000年の歴史を持つすごい街。パリはフランスより古い。何年住んでいてもぼかぼかと陽のあたる日にセーヌ河の遊覧船で歴史建造物を見ながらチビチビやるのはいい。ユーロディズニーランドでは園内酒の持ち込みは禁止。アメリカの暴力である。米国某州では銃を許可なしに持ち歩くのはいいが、公共の場で飲酒するのは罪らしい。よくわからん。

バトームッシュの乗船場があるアルマ橋をくぐる。チビッ。この橋名はナイチンゲールでお馴染みのクリミア戦争で英仏連合軍がロシア軍を破った戦勝記念に架けられた現在ウクライナのクリミア半島にある地名。その後ロマノフ王朝の露帝アレキサンドル3世が仏露軍事提携を結び多くのフランス文化がロシアに導入された。この橋と日本の係わりはこの戦争で仏兵が箱館へ流れ着いたが鎮國中にも関わらず箱館の村人達は手厚く仏兵達を看護した。また日清戦争の勝利では日本は遼東半島の統治権を得たが仏露軍事提携で両国が異議を申し立てた。それにドイツ帝国が加わった。これを三国干渉という。だからその後第1次世界大戦で青島(チンタオ)を占領していたドイツと日本が敵対して日本が戦勝した。この経緯はバルトの楽園をDVDで御覧頂きたい。

エッフェル塔と共に鉄の時代を象徴する最も豪華な鉄の橋アレキサンドル3世橋をくぐる。チビッ。この橋は1900年の万博の際息子のロシア皇帝ニコライ2世が仏露軍事提携を結んだ父の名を採りフランスに寄贈された。ニコライ2世は日本が大嫌いであった。訪日中こっぴどい目に遭ったらしい。日露戦争の敵将である。哀れにもロシア革命でトロツキー一派に処刑された。皮肉にも東京のお江戸日本橋はアレキサンドル3世橋をモデルに設計されたというから日本という国もオメデタイ国だ。パリのノートルダム寺院前と同様日本各地の距離の基準・出発点となっているが上に高架道路が架けられその重要さは無視されている。

18世紀以来ロシア人は千島、樺太、蝦夷と相次いで侵入。1861年には対馬に来て住民を殺害し一時占領した。幕府はロシアの略奪と南下防衛の為松前藩に箱館奉行所を設置させた。また日本が日清戦争の賠償として得た遼東半島もロシアは強引に奪った。

日露戦争の際、水師營の会見で第3司令官・乃木希典がロシアのステッセル將軍から白いアラブ馬を受け取った。山岳の多い日本では昔から白馬は蹄も白みがかかり爪も冬にひび割れしやすく、また目だって敵から襲撃されやすかったので戦国武將達には好まれなかった。武士の馬は足利尊氏や源義経の騎馬図を見ても黒馬に乗っている。近代戦でも日本の軍馬は鹿毛、青毛、後に栗毛の馬と限定されていた。ロシア軍は雪中での戦闘も多かったであろう。後方の司令官達には白馬が好まれたようである。日本では武士の馬は黒。話はそれるが、映画やテレビで快傑黒頭巾が白馬に乗って登場するのは嘘。原作は黒い馬であったろう。黒頭巾が暗闇の中、黒い馬に乗って出てきてもスクリーンに目立たないので映画監督が白馬に変えてしまった。

日露戦争は危なっかしい勝利であった。青森県八甲田山の雪の中での演習で多くの死者が出た事件を引き起こしたりもした。日本軍部は世界に誇るロシア・コサック騎兵はたいしたことない、とか日本騎兵の活躍ぶりを敵中横断800里という武勇伝を創作しもてはやしたりもしたが、大部隊による騎馬戦はなく偵察が主な仕事であった。ロシアに馬の質も兵力も劣っていたのは確かである。

軍港を見渡せる旅順攻略から始まった際に膨大な戦死者を出した乃木大将の責任は重い。しかしここから海軍がロシア連合艦隊を撃沈していなかったら世界最強のバルチック艦隊が合流した時勝利できたかどうか疑問らしい。東郷平八郎の日本海海戦戦略はフランス海軍士官学校の必須教科にもなっていた。

危うく勝利した日本は海戦勝利時点で軍事費も国家予算の8年分を使い切っており、補充する兵も国内に残っていなかった。何とかしたい日本を救ったのがアメリカ大統領ルーズベルトであった。ロシア皇帝の専制政治を憎んでおり、日本が欧米の思想を取り入れ立憲政治を行っていたことに好感を持っていた。ルーズベルトの仲立ちで、日本は賠償金の要求を撤回する、ロシアは樺太の南半分を日本に譲る、ということで妥協し、アメリカのポーツマスで講和がなされた。

文責: 竹本 元一 www.clubanfaa.com takemotomotoichi@yahoo.fr
電話: 06 10 45 89 77 フランス史、アラビア語、フランス語、スペイン語、英語、日本語の授業も行っています。
興味がある方は御連絡ください。



司法書士 桑瀬 登起子(くせ とときこ 会員)
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445/FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区三栄町7-3-202号



クーブラン生誕350年・特集2018年

クーブラン一族について <8>

2019年4月1日、シャンゼリゼ劇場でジャン・パティスト・リュリ《アルミード・貴婦人オペラ》を演奏会形式で観劇、ルイ14世の芸術鑑識眼が優れていたか如実に感じました。リュリの音楽は実に立派であったものの、音楽史上、古典派口マン派が演奏会場で膾炙していた20世紀まで、ノーベル文学賞作家ロマン・ロランが「無味乾燥のレチタティーヴォの平面」が代表的で「全曲聴くのに辛抱が必要」であったのです。古楽器主義台頭から、バッハ以前の音楽の在り方に目が向けられ始め、先駆者のひとり、ウィリアム・クリスティ(1944-)が1979年に創設した音楽・器楽アンサンブル「レザール・フロリサン」を率い、フランスバロックオペラを復活、《アティス・国王のオペラ》を上演させた大きな功績。リュリのオペラ《アルミード》の演奏会形式。まずこういう演奏は日本では聴けません。音楽も素晴らしい。音楽だと時代に関わらず、その時代を実感できます。建築、絵画、家具も素晴らしい芸術ですが、鑑賞に主観が入り、その人がどのように感じたか客観的に判らないところもあります。ところが音楽は主観があっても再生される音は「ルイ14世宮廷の人たちが聴く音そのまま」を我々は実感できるでしょう。特にルイ14世は王侯の中でも趣味に優れ、一方、毀誉褒貶のリュリとは言え音楽は別格で、リュリが敵視したシャルパンティエの音楽は「穏やか過ぎて」迫力がないとも感じました。役者が一枚上手だったリュリは巧言令色の御仁でルイ14世に取り入ることも巧く、讒言で多くの人を陥れ、無類の悪人であったでしょう。舞踏名手ルイ14世の踊り相方を務め、政治的に機を見るのに敏で宮廷音楽の実権を手中に収めました。リュリと仲違いをしたモリエールが見出したシャルパンティエの楽団を禁止の勅令で窮地に追い込みました。ルイ14世がフランス音楽独自性を求め、華やかな宮廷音楽、ヨーロッパにおける優位性をリュリは果たし、王の個人的な楽団を「王の24人のヴァイオリニスト」に12人オーボエ、リコーン、ギター、チェンバロ、フラウト・トルヴェルソの楽器を加えた大編成のオーケストラ、小編成のトリオの響きをオーボエとファゴット、舞台全体と一部での演奏、多様な様式、ルイ14世が望んだ、ヨーロッパ随一の宮廷生活を演出するのに成功しました。音楽史の観点からリュリは、バロック音楽中期(1650年~1700年)に属しています。通奏低音が曲の推進力の典型的なバロック様式の音楽を構築、リュリの音楽は速い楽章の快活さ、悲しげな楽章における情緒性を兼ね備え、幅広い表現でも名高く、コメディ・バレやトラジュディ・リリックのクライマックスで多用されるパッサカーユやシャコンヌは人気があり、《アルミード》のパッサカーユはダンゲルベールの編曲、宗教曲の分野でも、宰相セキエ(Sequier)の葬送音楽《われを憐れみたまえ(Miserere)》は称賛を受けました。リュリの影響力は、宮廷舞曲の様式に急激な革命をもたらし、支配的で緩やかで荘重な動きに代わり、急速な動きの舞曲を採り入れたのです。リュートやクラヴサンを始めとする器楽曲の発展、ブレ、ガヴォット、ジーク、バスピエ、メヌエット、サラバンド、シャコンヌなど新しい舞曲が流行し、中世からルネサンスを経て受け継がれてきたいくつかの舞曲は流行おくれで廃れ、代わりに、アルマンドは2拍子から4拍子へ変わるなど、前世紀とは性格的な違いを示すようになります。リュリが作曲した典型的な叙情悲劇は5幕もので、初期の叙情悲劇は寓意的なプロローグを持ち、ルイ14世、王の高貴さと戦での勇敢さが讃美されています。1663年、コルベール宅を訪れたルイ14世が「諸君に託するのは私の最も大切なもの、私の栄光である」と述べ、マザラン枢機卿がイタリアオペラの導入に苦労した後、リュリはディヴェルティスマンの確実な第一歩から1673年、《カドミュスとエルミオン》が史上、初めてのフランスオペラとなります。「王の栄光」は常に「私は・・・」が「国王の変身」でした。5幕それぞれが基本的なパターンに従って書かれ、主要登場人物の1人がその感情を表すアリアで幕を開け、短いアリア(petits airs)が散りばめられたレチタティーヴォの対話が続く、事件が起こり、各幕は合唱やバレエ団の見せ場であるディヴェルティスマンで締められます。《アルミード》も例外ではありません。独唱も立派でしたが、合唱が多用され、大掛かりな口マン派以降のオペラより迫力があり、合唱が歌われる頻度も多かったのです。Hervé Niquet指揮、Le Concert Spirituel Hervé Niquetが1987年、フランスバロック音楽振興に創立、Véronique Gens(Armide) Reinoud Van Mechelen(Renaud)が演奏しました。エルヴェ・ニケの演奏を度々聴きましたが、《アルセスト》は前述のオーケストラ編成に大掛かりな打楽器が加わり、2階、3階の客席からトランペットが吹奏、〈風 Les Vents〉ではウインドマシン(ハツカネズミが回す輪に似た形で人間大のもの)の擬音が劇的な表現で見事でした。



アルミード Veronique Gens ルノー Reinoud Van Mechelen

山崎 孝(やまざき たかし) 1937年生まれ。東京藝術大学卒業。ピアニスト。

グローバル時代のコミュニケーション

～国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション～

【第12回】

こんにちは！

皆さんいかがお過ごしでしょうか？ ご承知の通り4月末で平成の天皇陛下が退位され、5月から令和になりました。昭和の終わりは崩御のあと町もTVも喪に服すためとても暗い長い時間の後よく気づかない内に即位された感じですが、今回は退位の儀式から即位までTV生中継もあり、年末年始ながらのお祝いムードの中元号が変わりました。

この数年私はマインドフルネスティックナットハン氏の教えから「今ここ」がとても大事だというお話をさせていただいてまいりました。大きく元号が変わるこのタイミング、ちょっと時間を作って平成の自分を振り返るのはどうでしょうか。

皆さんは平成どのように生きられましたか？

あなたは何を成し遂げてきたのか(できなかったことはほっといて)、できたことに着目して、自信をもって令和に向かいましょう！

平成から令和へパリの地から、過去の自分から今の自分をよく見つめなおし、将来の自分へとつなげてくださいね。

さて、今月も始めて行きたいと思います。

第10回で、コーチングの本質は、「相手の頭のなかにうまく行っているイメージを描いてもらうこと」というお話をさせていただきました。

少し復習しておきましょう。

人間はイメージと本当に起こっている現実の区別がつかないのです。

人間は実際に起こっていることを頭のなかで体験しないと、その行動はとれません。

相手の頭のなかに、うまく行っているイメージを描くことができれば、自動的にその通り彼は行動を起こそうとします。これが人間の本質です。コーチングを突き詰めると、このことを効果的に導くことにほかなりません。

では実際に具体的にはどうすれば相手の頭のなかにうまく行っているイメージを創ることができるのか？

今回はこのことについてお話ししたいと思います。

人間は、質問によって今まで意識していなかったことに意識が向かい、考えることが出来ます。また逆に質問されると必ず答えを探し出します。人間はわからないということがあると生きていけなくなるのでは、という生存本能から、必ず答えを無意識的に探しに行く動物なのです。

相手の中にうまく行っているイメージを描くには、

「どうしたらいいと思う？」この質問が、どんな場合にでも効果的です。

きみだったら次はどうする？どうやったらいいのかな？

未来をイメージさせるのです。未来を考えてもちろん失敗しているイメージを描くネガティブな人も中にはいらっしゃいますが、ほとんどの方はうまく行っているイメージを描いてくれます。ですからこの質問が機能するのです。

簡単でしょう！

この未来のイメージが、よりありありと実際に自分が行動をしているイメージにまで落とせると、あとはその通り行動を起こしていきます。

そしてここで大事なことは、相手(部下やお子さん)が話したうまく行っているイメージをしっかりと承認することです。

いいね！それやってみてよ！ぼんと後押しすることによって、自発的な行動が生まれるのです。

相手の頭の中にうまく行っているイメージを起こしてもらう。

このための質問をする。このことにつきます。

前回お話しした通りです。

具体的には何をやるの？うまくいっているには自分は何をしたらいいのかな？

部下にでもお子さんにでも全く同じようにこの質問は機能します。

このような質問でコーチができるのです。

「どうしたら良いと思う？」ぜひやってみてください。

大山裕之 コンティニュー株式会社 代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟 理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

場所と

人の出会い

[21]

フランスでのモーツァルトの足跡を訪ねてみると…

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトは 3回フランスに滞在している。

息子ヴォルフガングと娘ナンネルの音楽における神童ぶりが評判になるにつれ、父レオポルドは二人の子供たちが小さいうちにこれをヨーロッパ中に披露しなければ、と思い、1763年7月一家揃って3年3ヶ月に及ぶヨーロッパ大演奏旅行に出発する。一家がパリに着いたのは1763年11月18日のこと。モーツァルトは7歳だった。パリには翌年4月まで約5ヶ月間滞在した。宿泊先は当時のバイエルン選帝侯大使宅であったBeauvais館 (68 rue François-Miron)。建物は現存する。

貴族たちに紹介され、あちこちで演奏会を行い大評判になる。ベルサイユ宮殿へも招待された。ベルサイユ滞在は12月24日から2週間。元旦の食事に招かれ、幼いモーツァルトは王妃マリー・レクザンスカの手に接吻し、亡くなる直前のボンパドゥール夫人にも会っている。王族に不幸があったばかりだったため、正式の御前演奏の記録はないが、プライベートコンサートを行ったお礼に金の煙草入れや金の時計、そして1200リーヴルが王室から贈られた。

1764年ロンドンへ移動。翌1765年にはオランダへ。そして1766年5月、再びパリへ。これが2回目のフランス滞在になる。モーツァルトはもう10歳になっていた。パリには2ヶ月弱滞在。ディジョン、リヨンを経て、ジュネーヴ経由でザルツブルクに戻った。

3回目のフランスは1778年、22歳の時。音楽家としての名声を高め、良い就職先を見つけることが目的であった。この旅行には母アンナ・マリアが同行した。パリに着いたのはコンサートシーズン真っ最中の3月23日。さっそく聖週間に演奏するための協奏曲の注文が入り、オペラ座の関係者とも交流を持つことができ、順調なスタートだったが、メセナになりそうな貴族たちを訪ねても何も実らず、しまいにはせっかく書き上げていた協奏曲もボツにされてしまう。子供の時は「神童」ともてはやされても、22歳になればそのへんの若い音楽家と同じ扱いしか受けない、ということだ。

それでも新たに注文を受けて作曲した「パリ交響曲」で聖体の祝日のコンサートに参加し、大喝采を受けた。が、直後母親が亡くなる。1778年7月3日、宿泊先のホテルがあった8 rue du Sentierで。お葬式は教区教会だった聖ウスタッシュ教会で行われ、遺体は教会の墓地に埋葬された。その後墓地はなくなってしまい、お墓は残っていない。



アンナ・マリアさんが亡くなったrue du Sentier 8番地



Wolfgang Amadeus Mozart 1756-1791



聖ウスタッシュ教会

異国でたった一人で母を看取るという悲しい経験をしたパリをモーツァルトはあまり好きになれなかった。貴族たちの音楽的感受性のお粗末さに失望した、という手紙も残っている。才能と情熱にあふれた青年だったが、世渡りが下手だったという評価もある。とにかく母の葬式に参列して

くれたのは、ホテルの女主人と友人のたった二人だけだったという事実で当時のパリにおけるモーツァルトの状況がわかる。

同年9月26日、モーツァルトはパリを離れ、ストラスブールへ。今回の旅行は何も成果がなく、故郷ザルツブルクに帰っても人々に会わせる顔がない。でも、どこへ行けば良いのだろうか？という絶望的な気持ちで着いたストラスブールでは驚くほど歓迎された。数回のコンサートを行う。聖トマ教会にはその時弾いたオルガンが今でも健在である。ストラスブール大聖堂の教会楽長フランツ・グザヴァー・リヒター (マンハイム派の巨匠作曲家) と知り合いになり、リヒターの後を継いで教会楽長のポストに就きたい、と本気で考えた。すっかりストラスブールが気に入ったモーツァルトだったが、結局ザルツブルクに戻った。

ところで、フランスの国歌「ラ・マルセイエーズ」はモーツァルトが亡くなった翌年1792年にストラスブールでルージェ・ド・リール大尉が作詞し、発表した。作曲者が誰なのか不明だが、当時のストラスブール教会楽長だったプレイエルが作曲した説もある。もし、モーツァルトが希望どおり教会楽長になっていたら、病気にならず、1792年にも生きていたに違いない。そして「ラマルセイエーズ」を作曲していたかもしれない。

歌詞があまりモーツァルトには合わないような気もするが、でも、モーツァルトのピアノ協奏曲25番にラマルセイエーズとそっくりのメロディーがある。「魔笛」のトリオの部分にもそっくりな旋律がある。作曲者はストラスブールのモーツァルトファンだったのか？だとするとフランスでのモーツァルトの一番大きな足跡はこの国歌なのかもしれない。



ストラスブールの聖トマ教会 (C)Claude Truong-Ngoc Wikimedia Commons

日本語ガイド通訳協会 小松その子



諾うに非ず黙して青き踏む	美智子 妃は大和なでしこ 佐保の姫	繫船のたゆたふ彼方春の星	たのしみのひとつとなりぬ 木々芽吹く	ひこばえや則天去私を詠ふごと	春愁や今日は便りのなき日らし	地下鉄を抜け出で見れば春の星	春の星何処にも見えぬ夜の空	セー又川見飽きぬ 午後の春思かな
--------------	-------------------	--------------	--------------------	----------------	----------------	----------------	---------------	------------------

自選句集 120 (投句到着順)

雨	勝	ゆ	ヨ	美智子	郁	順	春	佳久子
緑	義	り	シ		子	子	代	

春期フランス語講座 4月10日(水)~ 7月11日(木)

月L/火M/水Me/木J/金V/午前-ma/午後-ap 教室: 9, ave Marceau 75116 Paris Tel: 01-4723-3358 e-mail: nihonjinkai@free.fr
講座実施は各クラス5名以上。体験入学可。【初級クラス新設】

クラス	曜日	時間帯	既習時間	使用テキスト	授業料
MV-ma # 新設	火金	9h45-12h00	まったくの初心者	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant, complet A1.1	540€
MJ-ap ♡ 新設	火木	12h30-14h45	まったくの初心者	Saison 1(Gibert Jeuneにてお求めください)	540€
L-ap ♡	月	12h30-14h45	初級	コピー配布教材(日常に役立つフランス語) A1レベル	247.50€
LMe-ma #	月水	9h45-12h00	54h	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant	517.50€
M-ma ☆b	火	9h45-12h00	83h15	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & コピー配布教材	292.50€
LJ-ma ♡	月木	9h45-12h00	117h	Saison 1(Gibert Jeuneにてお求めください)	540€
V-ma ◇	金	9h45-12h00	117h	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant	292.50€
J-ma ☆b	木	9h45-12h00	141h45	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & コピー配布教材	292.50€
Me-ma ☆b	水	9h45-12h00	396h	Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & コピー配布教材	270€
Me-ap #	水	12h30-14h45	488h15	Grammaire Progressive du Français-Niveau perfectionnement	270€
会話M # 初級I 新設	火	12h30-14h45	日常会話の発音・聞き取り訓練クラス。		292.50€
会話J # 初級II 85h30既習	木	12h30-14h45	いろいろな場面設定での日常会話や文章を使って実践的にすぐに利用できる練習と正しい発音の訓練。		292.50€
会話L ◇ 中級 189h既習	月	12h30-14h45	L 中級, 教材コピー配布 J 初級I, M初級II テキスト Communication Progressive du Français-Niveau grand débutant		247.50€

1) 授業料は一期コース前納制。返済には応じません。支払方法は郵送の場合は小切手のみ。来館払いの場合は現金または小切手。小切手の宛先ordre はAARJF。送付宛先: 9 avenue Marceau 75116 Paris 授業開始後、約2週間経過した中途入学に関しては別途料金計算。問い合わせください。問合・申込 TEL 01 4723 3358

2) テキストはGibert Jeune (10 Place Saint Michel 75006 Paris) にて各自お求めください。
Saison 1=DIDIER社刊行、Grammaire Progressive du Français-Niveau débutant & perfectionnement、Communication Progressive du Français-Niveau grand débutant、Grammaire en dialogue-Niveau grand débutant、Tendances méthode de français A1=CLE INTERNATIONAL社刊行

《日本人の特徴を知り尽くした講師陣による授業》 Mme Florence MEHRVAR (♡クラス担当) M Michel BRUNEAU (☆クラス担当) Mme Marine VALLE (♠クラス担当)
Mme Muriel NAVARRO (◇クラス担当) M Laurent LOYER (#クラス担当)

夜間クラス 初級I 月&水 19h-20h30 新設
期間: 4月10日(水)~7月10日(水) 週2回(祭日休) 計23回
対象: 全くの初心者

夜間クラス 初級II 月&木 19h-20h30
期間: 4月11日(木)~7月11日(木) 週2回(祭日休) 計24回
対象: 初級(2018年9月より75h既習)

夜間クラス 初級IIIb 金 19h-20h30
期間: 4月12日(金)~7月5日(金) 週1回(祭日休) 計13回
対象: 準初級(2017年4月より114h既習)

夜間クラス 初級IIIa 火&木 19h-20h30
期間: 4月11日(木)~7月4日(木) 週2回(祭日休) 計24回
対象: 初級(2017年9月より177h既習)

受講料: 初級I 517.50€/ 初級II, IIIa 540€/ 初級IIIb 292.50€
講師: 初級II&IIIb Laurent LOYER / 初級I&IIIa Muriel NAVARRO
教材: 初級II&IIIb: Communication Progressive du Français-grand débutant、初級I&IIIa: コピー配布教材

フランス語 発音教室
4月11日(木)から7月11日(木)まで 予約不要
対象: フランス語のレベルは問いません。
講師: 火 Mr Laurent LOYER / 木 Mme Florence MEHRVAR
日時: 火・木曜 15h00-16h00
受講料: 1回7€ (現フランス語講座受講者は5€)

DELFD/DALF 対策 2クラス *実施3名以上
火曜 (B2)、木曜 (B1) 17h15-18h45 (1h30) 各13回
期間: 4月11日(木)~7月11日(木)
対象: B1、B2受験者 テキスト: コピー配布教材
講師: Mme Muriel NAVARRO (DELFD認定官)
受講料: 各292.50€



目次

第9回希望祭	1	フランス歴史散歩	8
特別寄稿・シャルル・マスト	2	みもぎ定期演奏会のお知らせ	8
コラム・Youtube Generation (2)	2	希望祭ボランティア募集	8
ハツラツにっぽん人	3	終(つい)のデザインのおすすめ (30)	9
ご意見をお寄せください	3	馬文化を通して日本を考える(5)	9
パリ日本文化会館事業案内	4-5	クーポン生誕350年特集<8>	10
ヨーロッパでの和紙にまつわるお話	5	グローバル時代のコミュニケーション	10
滞在相談室から	6	場所と人の出会い<21>	11
補習校説明会のお知らせ	6	ふらんす俳句会<120>	11
NACピエンナーレ展のお知らせ	6	春期フランス語講座	12
日本人会活動案内	7		

日本人会会報 Journal Japon
年6回発行: 第44巻3号(通巻277号)
発行人 片川 喜代治
編集人 高橋 幸隆
発行 在仏日本人会
ASSOCIATION AMICALE DES RESSORTISSANTS JAPONAIS EN FRANCE
9, Av. Marceau 75116 Paris
TEL: 01-47-23-33-58
月~土 du lundi au samedi 9:30-12:30 / 13:30-17:30
www.zaifutsunihonjinkai.fr nihonjinkai@free.fr
*サイト内「会報」の「バックナンバー」を閲覧する際のパスワード: sakura2019
*本誌の無断転載を禁じます

OCS フランス
朝日新聞国際版・日本経済新聞国際欧州版
国内・国際宅配便
定期購読のお申し込み・書類・貨物の集荷はOCSまで
Tél 01 49 45 81 00 - Email japandesk@ocsfrance.fr